

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12-106
自己評価作成日	平成22年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境が良く、自然に恵まれています。川の近くの土手は交通量も少なく近隣の散歩コースであり色々な花が咲き季節を感じます。天気の良い日は利用者さんと散歩し、生活のマンネリ化を防ぎます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が設立したホームであり、健康管理や緊急時の連携も構築されているため、利用者や家族にとって安心できるホームである。職員は「一人ひとりの想いを大切に笑顔と優しさで寄りそう」という『理念』に添った介護を心掛けている。毎日の生活がマンネリ化しないよう利用者と一緒に大好きな畑仕事をしたり、共に笑って過ごすことができるよう利用者のことを常に中心に考えている。職員は、研修等へ積極的に参加したり、資格取得に意欲的であり利用者の穏やかな生活を支援するために努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム竹の園

(ユニット名) I 階

記入者(管理者)  
氏名 清水千明

評価完了日 平成22年8月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で話し合い作成した。できるだけ利用者に寄り添う様にケアしている。</p> <p>(外部評価) 利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支援するために職員全員で作った理念を掲げている。月1回のホーム内の勉強会などで確認し合い理念に添ったサービスが提供ができるよう取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 周辺が田畑で、農作業中の方と挨拶や会話をする。納涼祭にも招待している。</p> <p>(外部評価) 隣接する保育所の園児の慰問を受け入れしたり、地域の方をホーム主催の納涼祭等の行事に招待する等、地域との交流を深める努力をしている。徐々に多くの参加が得られるようになってきている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の清掃作業などに参加の声掛けをお願いしている。地方祭にも参加しているが、貢献には至らない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 学識経験者や地域の有志の方、小学校の校長・消防署長さんにも出席して頂き意見交換・アドバイスなど受けている。	
			(外部評価) 会議は定期的に行っている。ホームの実態報告や利用者の現状報告をし、委員からの意見や情報をサービスの向上に活かしている。会議を音楽療法等のイベントとの共催を試みるなどの工夫をしている。出された意見は記録に残し、回覧して職員で共有、必要に応じて検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 普段より気兼ねなく声掛け、職員の研修にも、行政報告・介護保険の現状など、講師を頼む事もある。運営推進会議にも出席、情報を提供して貰う。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して、利用者の生活上の課題等について相談したり、制度やサービスについての情報を得る等、日頃から連携に努めている。また、ホーム内研修の依頼をすることもあり何でも気楽に話せるよい関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現状では身体拘束はしていない。人権侵害であること職員全員が認識し、見守り主導で安全を確保する事としている。	
			(外部評価) 日中は鍵をかけることなく、職員全員が利用者寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアを実践している。また、言葉で拘束することがないように配慮もされており、研修会等にも参加し研鑽に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員と利用者との関係性を捉えながら、早期発見し防止する。研修に参加して意識をたかめる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修に参加している。資料を全職員で理解するよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明し理解を得ている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見箱の設置。家族来園時には意見を伺い前向きに活かしサービス向上に繋がっている。	
			(外部評価) 利用者や家族にも運営推進会議に出席してもらい、意見や思いを表せるよう機会を設けている。また、家族の面会等の時に、意見や要望等を聞くように努めている。出された意見等は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年1回施設長との面談がある。意見や提案を聴く場を設けて幹部会にだしている。  (外部評価) 月1回関係事業所との合同勉強会で、利用者の事例検討を行う等意見を出し合っている。外部研修など積極的に参加し、資格取得に意欲的な職員も多い。年1回施設長、事務長との個人面談があり意見や提案が直接言える機会を設けており、出された意見は運営に活かそうと努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格手当がある。資格取得に意欲的な職員も多い。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県GH研修会、認知対応研修など、積極的に参加され意欲的である。県GH協会より2年連続表彰を受けた。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣のGHと交流し、良い所は取り入れる。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 理念に一人一人の想いを大切に、笑顔と優しさで寄り添い出来ない事にそっと手をさしのべます。を心に置いて本人と向き合うように努力しています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 職員が踏み込めない領域（金銭面など）もあるが毎月来訪時に要望・不安などを聴き、時には電話で相談・連絡している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 医療との連携で安心して頂き家族の希望・要望はできるだけ受け入れてのサービスを心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に過ごし、生活しこれまでの経験談を聴き学び、良い関係で暮らしたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族交流の場としてお花見・納涼祭など行っている。 本人が家族と笑顔で過ごせる関係を支える。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人・知人には折りに触れ来訪をお願いしている。地区の祭には外出で楽しめる。  (外部評価) 利用者の大半は事業所がある地域周辺の出身であり、昔から利用している理容室、美容室、病院受診を職員が支援している。買い物時に知人、友人に逢うこともある。他のグループホームとの交流会で馴染みの人と楽しいひとときを過ごす等継続的な交流ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 自己の時間も大切にして頂き、ホールに出られた時は皆で唄を歌ったり、会話ができるよう支援する。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 自宅へ退去されたが、気楽に話しに来て頂く様にした。町で合った時にも話しかけている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) いつも身体を動かし商売されていた利用者さんには、食事の準備や洗濯物たたみを、民謡の教授には皆と一諸に歌って頂くなど。個々の想いを大切にしている。  (外部評価) 一人ひとりの、思いや希望は日頃の会話、行動、利用者同士の話等から把握している。意思の疎通が困難な方には家族から情報を得ている。気付いたことは申し送りノートを活用し、職員全員が確認、共有できるシステムになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴や楽しみを聞き出し、馴染みの暮らしを支援する。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の流れの中でコミュニケーションをとりながら体調や心身の状態を観察するように努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的に本人・家族と相談する機会を持ち、職員の意見も聞いている。	
			(外部評価) 利用者には2人の担当職員を配置している。管理者、主任が意見を出し合い利用者や家族の思いを反映した介護計画を作成している。現状に応じてプランの見直しをしている。完成した計画は家族に確認して印鑑、サインをもらっている。	同じ職員が長期間担当を続けることは、利用者のより深い理解ができたり信頼関係が築ける半面、馴れ合いになってしまう可能性がある。長期間担当を続けることの意味を職員間で話し合い、よりよいサービスが提供できるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 小さな出来事も記録し、情報を共有している	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) GH相互の交流や音楽療法があり、施設外の人との交流がある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物・理美容院、通院介助など地域の方とふれあう時間がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期的に通診し日頃の様子を主治医に伝え、連携を している。</p> <p>(外部評価) 入居後も、今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診 している。受診介助はほとんど職員が行い、診察結果 を家族に報告している。急変時は、事業所の協力医療 機関から往診も可能で、適切な医療が受けられるよう 支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師・Drの訪問が定着している。相談があればその 時にするようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 情報交換ができています。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族と十分な話し合いをして、できるだけ意向に添う ようにしている。</p> <p>(外部評価) 入居時に看取りに関する指針に基づき、事業所におけ る介護の考え方を説明している。医療機関との連携を 図りながら1例看取りを経験したことにより、職員の 学びがあった。状態変化時には、あらためて本人、家 族と話し合いの機会を持ち意向を確認し、思いに添え るよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防職員の指導を受け、緊急時の応急手当、初期対応の講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練・避難訓練を実施。地域への防災組織へのお願いをしている。  (外部評価) スプリンクラーの設置や緊急連絡網の整備がされており、年2回の避難訓練を実施している。職員だけでは対応できないことを実感している。災害時に備え必要な備蓄の対策と、緊急時に地域の人との協力が得られるよう働きかけなどの取り組みに努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 努力している。  (外部評価) 日々のケアの中で職員と利用者が信頼し合える関係が構築されているが、「馴れ合い」が生じないよう職員と利用者の立ち位置をしっかりと保ち、対応の仕方に気をつけている。	今まで以上に利用者との良好な関係を築きながら、利用者の個人の尊厳やプライバシーにも配慮されたマニュアルになっているか再点検を行い、実践していきようさらなる取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望に応じて支援している。希望が言えない人は家族と相談している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望に添って支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 介助で洋服を自分で選んで頂く。理容師訪問にて髪をカット整える。美容院への外出も介助している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日には本人好みの食事を作る。準備やかたづけも出来る方法と一緒にしている。	
			(外部評価) 利用者と職員が一緒にテーブルを囲み食事をしている。利用者同士の会話もはずみ、楽しいひと時となっている。誕生日には、本人希望のメニューにするなどしている。出張寿司屋が来て握ってもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的な体重測定や主治医の指示をうけている。尿量や回数など注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い。週1回は義歯の除菌。コップ・ハブラシは隔日に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) できている。排泄時間をチェックしトイレの誘導や声掛けをしている。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握し、排泄がスムーズに行えるようトイレ誘導、声かけを行い支援している。居室でポータブルトイレ使用の利用者もいる。後始末は、毎回職員が支援している。トイレには、排泄介助に使用するタオルが常時温かい状態で備えられており、優しい支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維食物を取ったり、毎日 同じ時間にトイレへの誘導、医師の指示で薬の調節など、個別にしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番など、本人の希望を聞いている。	
			(外部評価) 希望により毎日入浴することも可能である。チェック表で確認し利用者一人ひとりの希望や時間、その日の体調に合わせ、自分のペースで入浴できるようにしている。一番風呂を好む方には希望にそって対応し、入浴を拒む方には、言葉かけや対応を工夫し、タイミングに合わせて入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 希望に応じてエアコンの利用や、換気をしながら気持ち良く過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 本人と薬袋の確認をし、飲み忘れ誤薬を防いでいる。便秘薬は服用の調節をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人を個別に、楽しい園生活が出来るよう希望を聞きながらレクを取り入れたり、嗜好品なども提供するように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調をみながら、本人の希望で対応している。	
			(外部評価) 道の駅への買い物や外食、その他季節に合わせて場所を選び出かけている。利用者の身体状況に合わせて、可能な限り外出の機会を多く作るように努め楽しみの1つになるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭面で大丈夫な人は、自分で所持されている。希望により、移動野菜屋から果物を買われたり、職員と買い物に出かけ好きなものを買われる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が自ら出来る人には、プライバシーを守るようにしている。出来ない人には希望で代行している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を生けている。家の周囲には花壇を作っている。ホールには折り紙や写真を飾って、壁掛けも季節ごとに作成している。	
			(外部評価) 飾り棚に季節の花が生けてあったり、利用者と職員の共同作品や写真が壁に飾られていたり、温かい雰囲気づくりがなされている。大きな窓から緑豊かな景色が見られ、居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者さん同士が団らん出来るように、家具やテレビ・テーブルなどの配置を工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ドアには解りやすい名札を貼り、居室には本人や家族の写真を貼っている。使い慣れた家具を持参され、落ち着いた雰囲気づくりをしている。	
			(外部評価) 居室には備え付のベッド、エアコン、クローゼットがあるが、利用者の使い慣れた家具、愛用していた物品が持ち込まれ、自分らしい居室で落ちついた生活を送っている。壁には家族と一緒に過ごした懐かしい写真等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個別で必要に応じ、手すりを設置したり、ウーラー・ポータブルトイレなど使用して危険を防止。出来るだけ自力で動いて頂くようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県野村町野村12-106
自己評価作成日	平成22年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①毎日の生活がマンネリ化しないように、日曜日には外出を心掛け季節感を味わえる様にしている。②環境が良い。町から離れて交通量がすくない。川沿いの土手は散歩コースである。保育所・児童館が近く子供の声や姿を見る事ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が設立したホームであり、健康管理や緊急時の連携も構築されているため、利用者や家族にとって安心できるホームである。職員は「一人ひとりの想いを大切に笑顔と優しさで寄りそう」という『理念』に添った介護を心掛けている。毎日の生活がマンネリ化しないよう利用者と一緒に好きな雑仕事をしたり、共に笑って過ごすことができるよう利用者のことを常に中心に考えている。職員は、研修等へ積極的に参加したり、資格取得に意欲的であり利用者の穏やかな生活を支援するために努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム竹の園

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)  
氏名 清水千明

評価完了日 平成22年8月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ケアプラン作成時理念を落とし込んで作成する。実践につなげている。	
			(外部評価) 利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支援するために職員全員で作った理念を掲げている。月1回のホーム内の勉強会などで確認し合い理念に添ったサービスが提供ができるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な散歩・通院時・納涼祭などを通じて会話や挨拶ができる様になっている。	
			(外部評価) 隣接する保育所の園児の慰問を受け入れしたり、地域の方をホーム主催の納涼祭等の行事に招待する等、地域との交流を深める努力をしている。徐々に多くの参加が得られるようになってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者さん家族代表の方地域の有識者などを交えて、話し合いサービスの向上に繋がっている。	
			(外部評価) 会議は定期的開催している。ホームの実態報告や利用者の現状報告をし、委員からの意見や情報をサービスの向上に活かしている。会議を音楽療法等のイベントとの共催を試みるなどの工夫をしている。出された意見は記録に残し、回覧して職員で共有、必要に応じて検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 勉強会に市職員の参加をお願いして介護情報など、アドバイスを受けている。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して、利用者の生活上の課題等について相談したり、制度やサービスについての情報を得る等、日頃から連携に努めている。また、ホーム内研修の依頼をすることもあり何でも気楽に話せるよい関係ができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の資料を職員全員が目を通し、拘束しないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 日中は鍵をかけることなく、職員全員が利用者寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアを実践している。また、言葉で拘束することがないように配慮もされており、研修会等にも参加し研鑽に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止について話し合い、優しい言葉遣いを心掛けている。職員間でも注意しあう。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し理解するよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人・家族の納得のいくように説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が来所時には希望・ご意見など聴くように心掛けているが、言われる方はすくない。  (外部評価) 利用者や家族にも運営推進会議に出席してもらい、意見や思いを表せるよう機会を設けている。また、家族の面会等の時に、意見や要望等を聞くように努めている。出された意見等は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会・カンファレンスで聴く様にしている。全面的な反映にはなっていない。  (外部評価) 月1回関係事業所との合同勉強会で、利用者の事例検討を行う等意見を出し合っている。外部研修など積極的に参加し、資格取得に意欲的な職員も多い。年1回施設長、事務長との個人面談があり意見や提案が直接言える機会を設けており、出された意見は運営に活かそうと努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 介護福祉士に今年2人合格した。資格手当もあり。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会・ユニットのカンファレンスで話し、意見交換している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣のGHと交流し、サービスや質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族や面会者などから、ライフスタイルの情報を得る様努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族訪問時、現在の様子・心配ごと相談・伝達事項など話す時間を取っている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の希望を優先して相談しながら支援する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 通院・買い物・食事会など親子のように付き添い、行動している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎日来られる家族もあり共に散歩や通院介助などされている。家族自身の楽しみだといわれる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会にも良く来られ通院時・音楽療法・他GHの交流会などで、交流を深めている。  (外部評価) 利用者の大半は事業所がある地域周辺の出身であり、昔から利用している理容室、美容室、病院受診を職員が支援している。買い物時に知人、友人に逢うこともある。他のグループホームとの交流会で馴染みの人と楽しいひとときを過ごす等継続的な交流ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間で、意思疎通の出来ない方には、中に入って話しを伝えるよう努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方とあった時は、相談に応じてアドバイスなどする。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の訴えや希望には実行する。その人らしさを探す工夫をする。	
			(外部評価) 一人ひとりの、思いや希望は日頃の会話、行動、利用者同士の話等から把握している。意思の疎通が困難な方には家族から情報を得ている。気付いたことは申し送りノートを活用し、職員全員が確認、共有できるシステムになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族から生活歴や生活環境の把握に努める。本人からも昔話などから聴き出す。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人のライフスタイルを尊重して、体調にも注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の要望を聞いた上で計画をたて出来る事から支援している。	
			(外部評価) 利用者には2人の担当職員を配置している。管理者、主任が意見を出し合い利用者や家族の思いを反映した介護計画を作成している。現状に応じてプランの見直しをしている。完成した計画は家族に確認して印鑑、サインをもらっている。	同じ職員が長期間担当を続けることは、利用者のより深い理解ができたり信頼関係が築ける半面、馴れ合いになってしまう可能性がある。長期間担当を続けることの意味を職員間で話し合い、よりよいサービスが提供できるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ケアや介護記録・日常の変化などを記録し、職員間で共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出・外泊・ショッピング・など急な要望にも敏速に対応するようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状況に合わせて協力しながら支援している	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族の意向に合わせ支援を行い、結果報告を家 族に伝えている。</p> <p>(外部評価) 入居後も、今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診 している。受診介助はほとんど職員が行い、診察結果 を家族に報告している。急変時は、事業所の協力医療 機関から往診も可能で、適切な医療が受けられるよう 支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 井関医院の看護師訪問時に相談したり、市立野村病院 再診時に相談している</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院中は洗濯物をとりに行き、利用者さんと話した り、医療関係者から状況を得るようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族・本人の希望・意向などを充分にくみ取り、話し 合いながら納得が得られるように対処する。</p> <p>(外部評価) 入居時に看取りに関する指針に基づき、事業所におけ る介護の考え方を説明している。医療機関との連携を 図りながら1例看取りを経験したことにより、職員の 学びがあった。状態変化時には、あらためて本人、家 族と話し合いの機会を持ち意向を確認し、思いに添え るよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当・人工呼吸などの研修に参加している。体調が急変した時のマニュアルがある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練・消防訓練を行っている。  (外部評価) スプリンクラーの設置や緊急連絡網の整備がされており、年2回の避難訓練を実施している。職員だけでは対応できないことを実感している。災害時に備え必要な備蓄の対策と、緊急時に地域の人との協力が得られるよう働きかけなどの取り組みに努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳を保つサービス提供や、言葉遣いに注意している。  (外部評価) 日々のケアの中で職員と利用者が信頼し合える関係が構築されているが、「馴れ合い」が生じないよう職員と利用者の立ち位置をしっかりと保ち、対応の仕方に気をつけている。	今まで以上に利用者との良好な関係を築きながら、利用者の個人の尊厳やプライバシーにも配慮されたマニュアルになっているか再点検を行い、実践していきようさらなる取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定出来ない利用者さんには、家族と話し合いで支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースで一日過ごされている。訴えの出来る人・出来ない人も個別に寄り添い対応している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望を聞きながら理美容院への外出介助をする。マニキュアなどもすると喜ばれる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る人はテーブル拭き・食器の片付けなど自主的にされる。  (外部評価) 利用者と職員が一緒にテーブルを囲み食事をしている。利用者同士の会話もはずみ、楽しいひと時となっている。誕生日には、本人希望のメニューにするなどしている。出張寿司屋が来て握ってもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) いつでも飲用出来るお茶を用意している。居室にもお茶を置いてある。月1回の体重測定をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを促し、出来ない人は介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別の排泄パターンを活かしトイレ歩行の声掛けを、している。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握し、排泄がスムーズに行えるようトイレ誘導、声かけを行い支援している。居室でポータブルトイレ使用の利用者もいる。後始末は、毎回職員が支援している。トイレには、排泄介助に使用するタオルが常時温かい状態で備えられており、優しい支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給・運動・服薬で個別に調節している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴拒否があれば翌日実施。職員数の関係で夜間入浴はしていない。	
			(外部評価) 希望により毎日入浴することも可能である。チェック表で確認し利用者一人ひとりの希望や時間、その日の体調に合わせ、自分のペースで入浴できるようにしている。一番風呂を好む方には希望にそって対応し、入浴を拒む方には、言葉かけや対応を工夫し、タイミングに合わせて入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の軽運動・仮眠などされている。居室の温度調節している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一日分ずつ仕分けてあり間違いのないように確認して、与薬介助している。薬剤説明書もある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人のニーズに添った支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気のよい日は散歩・外出・外食・ショッピングの支援。年2回の家族交流会では花見へ・納涼祭でも家族の協力を得ている。	
			(外部評価) 道の駅への買い物や外食、その他季節に合わせて場所を選び出かけている。利用者の身体状況に合わせて、可能な限り外出の機会を多く作るように努め楽しみの1つになるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙の代筆をしたり、電話での代行も頼まれる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 周囲が自然に恵まれているので、季節を感じる事が出来る。居室ドアに暖簾などしている。	
			(外部評価) 飾り棚に季節の花が生けてあったり、利用者と職員の共同作品や写真が壁に飾られていたり、温かい雰囲気づくりがなされている。大きな窓から緑豊かな景色が見られ、居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 冬場は3畳のたたみにコタツを置き、2～3人が座ってTVをみられる。ソファも置いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使用されていた家具や机・本などを置いている。	
			(外部評価) 居室には備え付のベッド、エアコン、クローゼットがあるが、利用者の使い慣れた家具、愛用していた物品が持ち込まれ、自分らしい居室で落ちついた生活を送っている。壁には家族と一緒に過ごした懐かしい写真等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの取り付けをしたり、トイレ・居室の目印を、本人の目の高さに合うよう工夫している。	